

ヴォイス・コラージュ・プロジェクト全講座の特徴  
＜基本各講座も同一内容で実施＞

＜講座の内容＞

1. 「余白を読む」 読解力と想像力
2. 「伝わる」という相手目線の「伝え方」
3. 表現のための発声と口腔利用
4. 表現方法（プラス・メソッド）
5. 講座の考えと提案
6. 発声・滑舌の詳細

# Voice collage project

## 1. 「余白を読む」 読解力と想像力



### 1-A. 余白について

「余白」とは、文と文の間にある文字が書かれていない空間です。実は文字と文字や単語と単語の間にも余白を見つけることができます。

その空間を行が空いているだけと考えないで、次の行との間には「何かがある」と考え、出来るだけ、その空間には「何かがあるか」を見つけ、「書かれていない省かれた言葉」を探し、それを活かして朗読してみましょう。



### 1-B. 作者は何故、そう書いたのか？

作品を一度読んでから考えていただきたいことです。表現に大切なことは、常に「何故？」「どうして？」ですから、「文を読む」ということは「あらかじめある事柄」と考えずに、何故作者はそのように強調したり、順番を入れ替え、その言葉で書いたのかを考えることが必要です。

# Voice collage project

## 2. 「伝わる」という相手目線の「伝え方」



### 2-A. 「伝える」と「伝わる」を考えた読み方とは？

「文章を伝える」が朗読の第一歩とした場合、次に「内容が伝わる」という朗読へ進化させましょう。

「読み手」と「聞いていただいている人」、そして「その間の空間」を感じて読むことが大切です。

その為には自分らしく「伝える」、相手への「伝わりやすさ」という視点から「どのようにしたら伝わりやすいのか?」「聞きやすいのか?」を互いに考えていきませんか？



### 2-B. 「伝える」と「伝わる」の媒体としての声とは？

朗読表現に必要なのない、力んで大きく、抑揚のない声では「伝える」「伝わる」ことは難しくなるからです。

何故なら「間にある空間」は、読み手の心の中を、聞き手に伝える空間だからです。「緊張」は「緊張」、「怖さ」は「怖さ」を、そのまま伝える空間だからです。

「伝わる声」とは、作品に関係の無い個人的に心配なこと、悩んでいてはっきりしないことも、そのまま「個人的な状態」や「不明」なこととして伝わります。

# Voice collage project

## 3 表現のための発声



### 3-A. 本当にその声の大きさ、音圧は必要ですか？

1m 程の距離で、耳を澄ましても聞き取れない声は別にして  
それ程大きく張り上げた、ワントーンの声の大きさは必要ありません。  
朗読は 1000 人規模の舞台で、マイク無しにしないのが基本です。

又、そのように音圧が多いと豊かで貴方らしい表現など出来る訳がありません。  
大きな音圧ではなく、体に響かせた声を手に入れることが早道です。



### 3-B. 発声練習と表現練習の区分けとジョイント

加工しないで自分が一番楽な音階域と声の出し方を考えていますか？

この講座は音声訓練、

つまり発声練習や呼吸の仕方と表現方法を一度分けてからトレーニングしていきます。

余計な力のいらない、体に共鳴した声を使い、  
口腔にある部品（舌や顎）の使い方を調整しながら行います。

滑舌やイントネーションも、この方法に母音活用という根本的な練習で治ります。

# Voice collage project

## 4. 表現方法（プラスメソッド）



### 4-A. 表現に必要な「感じる」とは？

表現をする時に何かを無理やり「感じよう！」としていませんか？

それは無駄な努力です！

何故なら「感じる」は主体的なものでは無いからです。

「感じやすい状態」にすることは可能ですが、

「感じる」は飽くまでも

起こった現象をそう受け取って起こるものです。

ですから、その主体の物事を考えること、「想像する」ことが必要なんです。



### 4-B. 表現に必要な「想像する」とは？

「想像する」は決して、その瞬間から静止画のようなものではありません。

その状態が始まる前から時間の経過と共に流れ、

その状態になったということです。

想像したい「その状態」は、その前の「その状態の前」の最低2つの状態が必要です。

その状態が止まっていることはありません。

ここを勘違いすると

「想像」は「感じる」ための「いらない想像」になります。

# Voice collage project

## 5. 講座の考えと提案



### 大切にしたい講座の雰囲気

押し付ける事なく、  
それぞれの表現をフォローアップするトレーニング方法には  
講座の雰囲気が必要です。

講座の講師は一人ひとりのトレーナーです。

ですから、トレーナーが例文を長々と読み、

押し付けるものではありません。

飽くまでもトレーナーはアドバイスを提案するだけです。  
楽しく気兼ねなく進めること、失敗を宝物と考えましょう。

勿論、講座進行には最適なエクセサイズを何通りも提案出来、  
問題解決の方法を共有しながら進めることが大切です。  
しかし、色々な問題点は解決方法が複雑で時間のかかるもの、  
即効性のあるものの2通りがあります。

読み手は表現が、早く色々と上手になる事を望んでいますが、  
アプローチは段階を踏んで進めましょう。

しかし、効果が納得できないと達成は難しくなりますので、  
その前の「どうして、そうなるのか？」も  
説明して挙げられるようにと、務めます。

「この点のこれを考えているので」等と説明し、  
互いに一つずつ問題解決にご協力ください。  
追記ですが、問題解決の事柄は決してマイナスに捉えること無く、  
そのような読みが必要になることもありますので、  
個性の1つとして考えてください。



## 大切な講座からの提案

読み手へは何気なく、つらつらと読むことを多くしがちなものです。  
「普通は!」「大体!」「こう読めば、こうなる!」  
はなるべく少なくしていき、いろんな表現にチャレンジしてください。

私達にも習慣という何気ない当たり前が多いですが、  
段階を進める中で一つずつ無意識な表現や音なども  
細やかに調整出来ていくことが大切だとお考えください。

以上のスタイルが、講座全体の大切な考え方です。

是非とも楽しみながら受講してください。

どの講座も受講する皆さんには、  
個別の発声訓練用音源を調整後にお渡しいたしますので、  
携帯電話にでも入れて講座以外の時間に練習してください。

この練習をするかどうかで大きく朗読は変わります。  
是非とも、一日一回は練習していただくことを希望しています。